

チャレンジ ザ ゲーム

国立三瓶青少年交流の家



チャレンジ・ザ・ゲームとは

- ・全国各地で幅広い年齢層に親しまれているスポーツ・レクリエーションです。
- ・技術や体力、勝敗を競うのではなく、グループでの交流を楽しみながら記録の向上に挑戦します。

例)	1回目の練習	7分
	1回目の本番	3分
	2回目の練習	7分
	2回目の本番	3分

**1回目を踏まえて、どうすれば記録が伸びるかをグループで考えましょう！
2回目の本番で記録が伸びたらGood！**



チャレンジ・ザ・ゲームとは

それぞれの種目のルール等は、団体の実態に応じながら適宜変更できます。

誰かと勝負するわけではありません。
自分たちのグループの記録向上を目指します。

そのためには、グループで話し合うなどの
「協力し合う姿」が大切です。



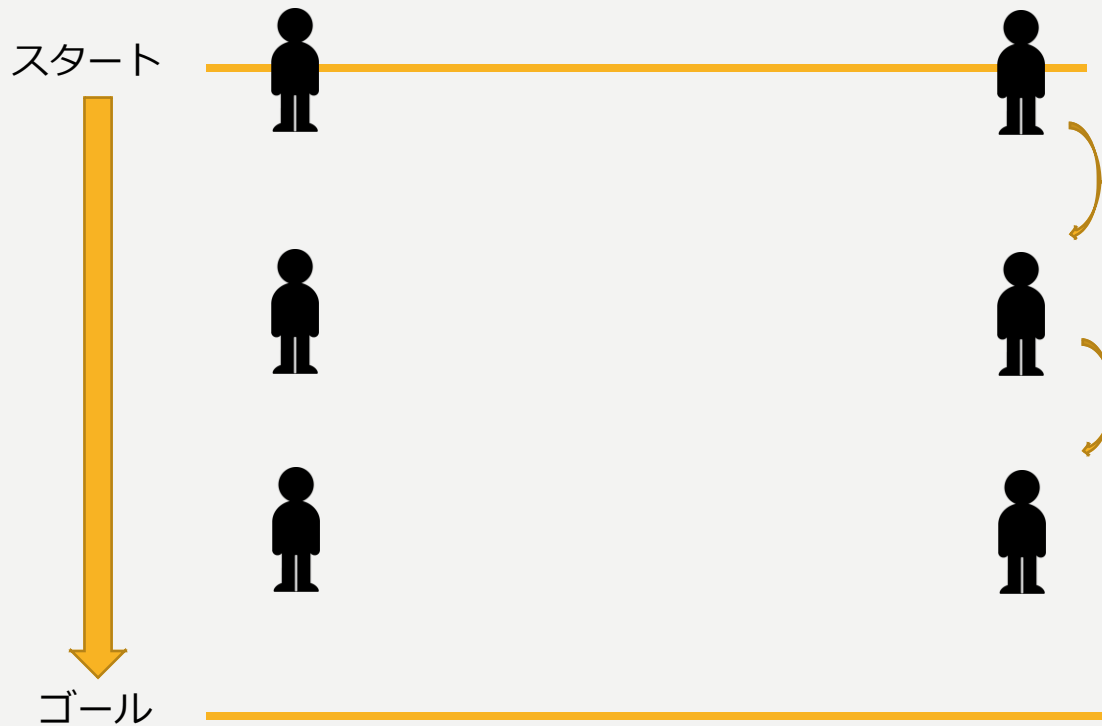
交流の家での チャレンジ・ザ・ゲーム

- 各学校の活動時間やねらいに合わせて、複数の種目から選んで実施することができます。
- 練習や本番の時間も変更することもできます。



ネットパスラリー（最大20人）

- ・二人一組となってネットを持ち、二人の息を合わせて、となりのペアのネットにパスをします。
- ・パスを繰り返していき、グループでスタート地点からゴール地点までボールを運びます。
- ・ゴール地点に着いたらもう一度スタート地点からパスをして、ボールを運びます。
- ・ゴールまで運べた回数をカウントします。



ロープジャンプ

8の字とび

- ・学校の体育でもよく行うとび方です。8の字を描くように走りながらとびます。

一斉とび

- ・なわを回す2人以外が、一斉にとびます。

大きな声で数を数えるとグループで盛り上がります。

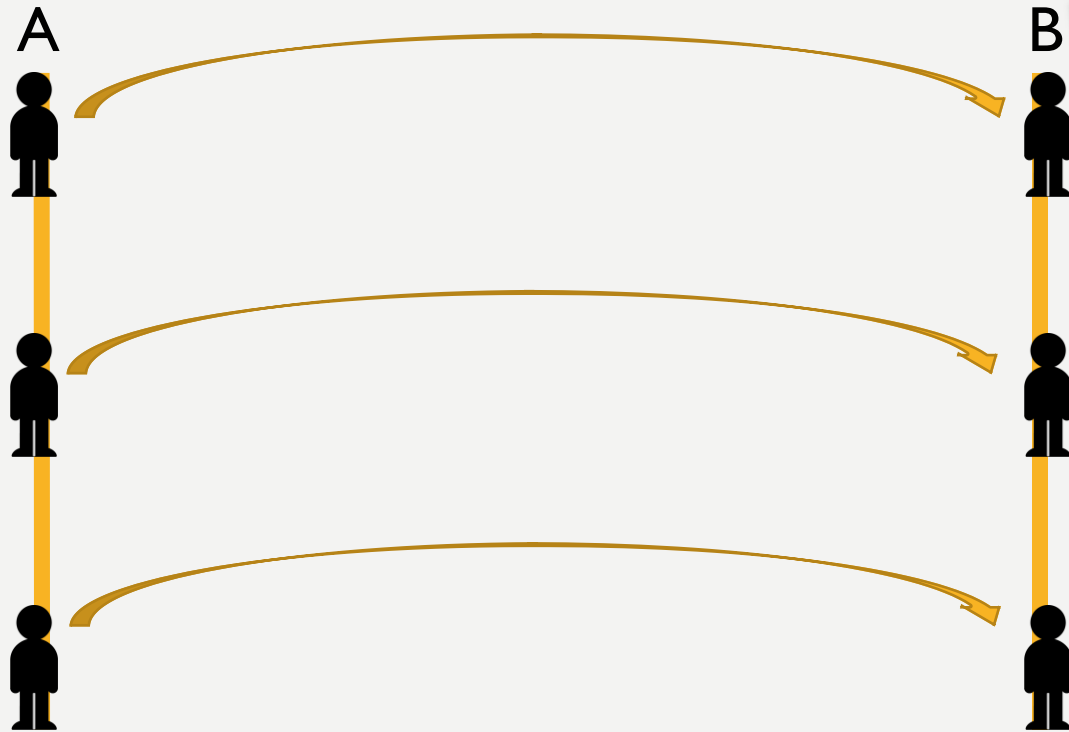


リングキャッチ

- ドーナツ型のリングを二人一組で投げてキャッチします。
- チームすべてのペアがキャッチすることができれば1ポイントゲットになります。



Bの人たちが全員キャッチ
できたら1ポイント



ピザキャッチ（最大18人）

- ・ピザ型のシートを二人一組で投げてキャッチします。
- ・チームすべてのペアがキャッチすることができれば1ポイントゲットになります。

Bの人たちが全員キャッチ
できたら1ポイント



キャッチング ザ スティック (最大80本)

<基本>

- 1人が2本（もしくは1本）のスティックを持って、共通の掛け声でとなりの人が持っていたスティックをキャッチします。
- 無事、全員がスティックをこぼさず、移動出来たら1ポイントになります。

<応用>

- 1人1本スティックを持って、横一列に並びます。
- 共通の掛け声で、端の人が、列のもう一方の端まで走り、スティックをキャッチします。全員がこぼさなければ1ポイントになります。



1人1本持って時計回りに回る型

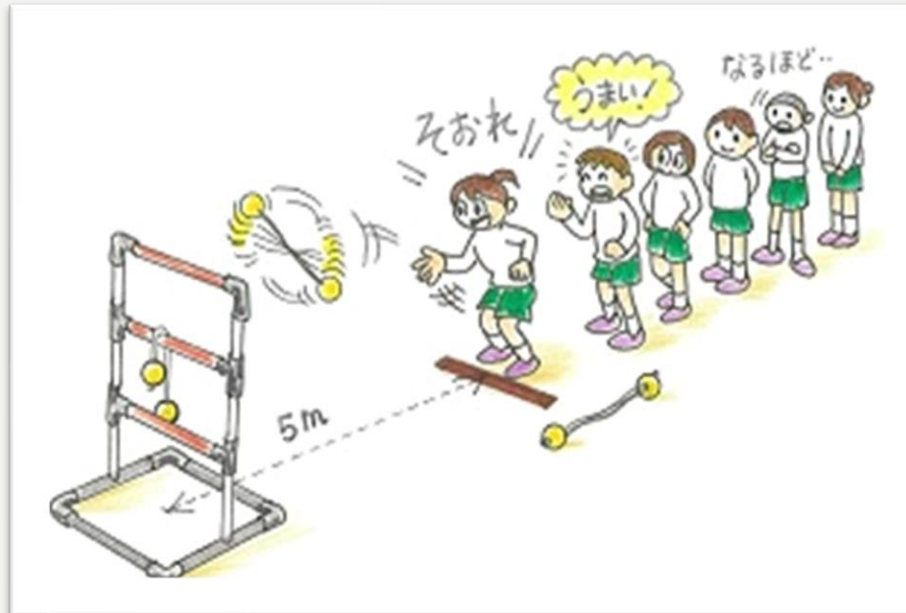


1人2本持って時計回りに回る型



ラダーゲッター（最大4セット）

- ・上・中・下とある3本の棒の的に向かって重しの付いたひもを投げた引っ掛けることができたならポイントゲットです。
- ・バウンドして引っ掛けるのはNGです。
- ・上・中・下3本とも引っ掛けることができたなら1ポイント
- ・時間内にたくさんのポイントをゲットすることを目指します。
- ・チームみんなでポイントを数えましょう！



ふらば～る

- ・黄色（大）とピンク（小）のふらば～るをバウンドさせて相手に投げます。
- ・4人で1チームの場合、みんながバウンドキャッチできたら1ポイントゲットとなります。
- ・4人チームの場合は四角の隅になるように立ちます。
- ・時間内でたくさんのポイントをゲットすることを目指します。
- ・チームの人数が多い場合でも、5人、6人と丸を作るように立って行うこともできます。



番外編 ～さんべの紙様～

- ・制限時間を設けずに行うチャレンジ ザ ゲームになります。
- ・チームで協力しながら取り組んでみましょう！



さんべの紙様

①チラシパズル

- ・他のチームがちぎったチラシをパズルのよう
にして復元させるゲームです。



②大きな輪づくり

- ・1枚の新聞を使って大きな輪を作ります。
切り離したり、結んだりしてはいけません。
上手に切ると、大人でも10人ぐらい
入れる大きな輪ができます。
頭を柔らかくして考えます。
写真ではまさに一生懸命考えている
ところです。

